

中学生教育委員会

〈学校生活や授業に提言〉

1月6日(木)、揖斐川町内の中学生が、学校生活や授業について町教育委員会に要望や提言を行う「中学生教育委員会」が揖斐川町役場で行われ、揖斐川中学校2年の河瀬佑大(かわせゆうだい)さんを議長に、町内6中学校の1、2年生21人と教育委員、教諭など約50人が参加しました。

揖斐川町では、平成17年の町村合併を機に、理想の中学校を示した中学生憲章が制定されました。中学生教育委員会では、その具現化に向けて、各学校が実践している活動を発表し、情報・意見交換を行いました。中学生委員からは、生徒数が減少している現状から、他校との交流によってお互いの学校生活を充実させたいなどの意見が出ていました。



▲学校での活動を発表する生徒たち

安心安全なまちづくり

〈交通安全街頭啓発活動〉

1月14日(金)、揖斐署、交通安全協会、小中学校PTAなど約150人が参加して、町内の通学路や交差点、養老鉄道揖斐駅前など30か所で「交通安全」ののぼりを掲げ、交通事故への注意を呼び掛けました。

揖斐署管内では昨年交通事故が多発し、様々な取り組みを行なってきました。町としても、安心安全なまちづくりのために、町全体で交通安全の意識の高揚を推進していく必要があります。事故の無い町を目指してみんなで交通安全に取り組みしましょう。



▲啓発活動の継続で安心安全なまちづくりを

燈籠まつり(春日六合下ヶ流)

〈無病息災を願う〉

1月15日(土)、無病息災を願って男衆が燈籠を奪い合う「燈籠まつり」(岐阜県重要無形民俗文化財)が、春日六合下ヶ流地域の薬師堂で行われました。

このまつりは、同地域に伝わる伝統行事で、燈籠の一部を手にすると、1年間無病息災・家内安全に御利益があるとされています。燈籠は、竹を組み合わせた骨組みに行灯(かたな)が取り付けられ、縁起ものの飾りなどが施されています。

この日は、20時30分頃から男衆が集まり始め、薬師堂の中央につるされた燈籠の下で「ジョンガйна踊り」という独特の節回しの舞を奉納。22時過ぎに男衆と見物の家族ら約100人から「ヨイサ、ヨイサ」の掛け声が沸き上がり、欄(かき)がロープを引いて燈籠を落とすと、男衆は一斉に燈籠を奪い合い、1年の幸運をつかみ取っていました。



▲燈籠の下で待ち構える男衆

手づくり郷土賞受賞

〈谷汲門前街並づくり委員会〉

1月20日(木)、国土交通省主催の「手づくり郷土賞」の認定証授与式が揖斐川町役場で行われました。

この賞は、地域づくりの優れた取り組みを表彰するもので、今回受賞されたのは、谷汲山華嚴寺の参道沿いの商店主らで組織する「谷汲門前街並づくり委員会(委員長 今村博正)」で、店舗の改修時には、門前町らしいデザインを採用し一体感を持たせた景観としたり、竹燈籠夜桜見物やお十七夜コンサートなど四季折々のイベントを企画運営し、地域の活性化を促しています。

今村委員長は、「継続することが大切です。今後も地域が一体となって活性化に努めたい。」と話されました。



▲受賞おめでとうございます

中学生海外派遣事業

セントジョージ市で学ぶ

町内の中学2年生の代表17人が、1月20日(木)から28日(金)まで、セントジョージ市(アメリカ ユタ州)で研修を行いました。

派遣団の皆さんは、セントジョージ市でホームステイし、アメリカ人の家庭の温かさに触れました。スノーキャニオン・ミドルスクールとパインビュー・ミドルスクールの学校訪問では、文化交流会が行われ、日本や町の自然・歴史・文化・学校生活を紹介しました。

また、デザートヒルズ・ミドルスクールでは、調理実習を行い、一緒に朝食を食べました。

セントジョージ市に滞在する最後の夜、さよならパーティーが行われ、楽器演奏や書道、茶道などの日本文化を英語で紹介すると、ホストファミリーの皆さんは、興味深そうに参加していました。また、「ミナモダンス」を派遣団員が踊ったあと、ホストファミリーの皆さんと一緒に踊りました。

翌朝、スノーキャニオン・ミドルスクールでお別れのあいさつをし、共に過ごした現地の生徒たちとの別れを惜しんでいました。

派遣団の皆さんが今回の経験を活かし、家庭や学校で今まで以上に活躍されることを期待しています。



▲揖斐川町の紹介をしました



▲記念撮影(デザートヒルズ・ミドルスクールにて)

▼一緒に朝食を作りました



春日の太鼓踊り

春日川合地区

1月23日(日)、春日川合地区の愛宕神社で、この1年間、火災が起きないことを願って、春日の太鼓踊りが奉納されました。

春日の太鼓踊りは、五穀豊穡や感謝の踊りとして古くから人々に親しまれており、岐阜県重要無形民俗文化財に指定されています。

川合の太鼓踊りは、「ボンデン」という幣束ひきを持つ踊り手が、列の先頭や踊りの中心に位置します。太鼓を抱える踊り手のうち、大太鼓を抱え、列の最後尾に位置する踊り手を「ヤクガシラ」と呼び、他の踊り手とは多少踊りが異なります。

春日の5つの地域で受け継がれてきた太鼓踊りは、地域ごとに特色があり、人々の暮らしと密接に関わってきました。



▲火の神様 愛宕神社での奉納踊り

文化財防火訓練

県指定文化財 高橋家住宅

1月26日の文化財防火デーにちなみ、1月23日(日)に久瀬地域日坂の高橋家住宅(県指定重要文化財)で文化財防火訓練が行われました。

文化財防火デーは、昭和24年1月26日に法隆寺の金堂の火災で壁画が焼失したことをきっかけに、その日を文化財防火デーと定め、全国各地で防火運動が展開されています。

訓練には、揖斐郡消防組合、町消防団員、地元住民約150人が参加。同住宅から出火したという想定で初期消火活動や重要物品の搬出、負傷者の応急手当などの訓練を実施しました。

訓練の最後には、一斉放水を行い、地域が一体となった防火対策と防火意識の高揚が図られました。



▲初期消火訓練の様子

さざれ石で地域の活性化を

〜揖斐川町・米原市首長懇談会〜

1月24日(月)、春日振興事務所、宗宮町長と伊吹山を挟んで隣接する滋賀県米原市の泉峰一市長が、「さざれ石首長懇談会」を開き、さざれ石を媒体に観光振興や町づくりで協力していくことで合意しました。

揖斐川町と米原市には、それぞれに「さざれ石」(春日のさざれ石は、県指定天然記念物)と呼ぶ石があり、色や形は異なりますが、地域で大切に守り受け継がれています。

宗宮町長は、「さざれ石を活用して、揖斐川町と米原市で観光の周遊ルートを作ることが可能であると思います。お互いに力を合わせ、地域の宝を磨いて地域の活性化につなげていきたいと思います。」と話しました。



▲「さざれ石」を前に宗宮町長(左)と泉市長(右)

社会を明るくする運動
作文コンテスト受賞報告

1月24日(月)、全国の小中学生が応募した「第60回社会を明るくする運動作文コンテスト」で、【優秀賞】全日本中学校長会会長賞を受賞した北和中学校3年の近藤真友さんが受賞報告に揖斐川町役場を訪れました。

表彰式は、1月18日(火)に岐阜市の岐阜地検で行われました。

コンテストには、全国の小中学生から20万点の応募があり、近藤さんは、「親切を受けたら第三者に親切を送り返す(ペイフォワード)ような社会になれば、少年犯罪は減ると考え、地域社会との縁が薄くなったと言われる今こそ、恩送りの気持ちや精神を大切にしていきたい。犯罪者の気持ちを周りの人がもっと考えたい。」と話されました。



▲受賞おめでとうございます

食材生産者食材紹介給食会

〜地域の食材おいしいな〜

1月25日(火)、学校給食の食材生産者と小生が一緒に給食を食べる給食会が大和小学校5年生の教室で行われました。

町の給食では、地元の食材を積極的に取り入れており、この日は、全中学校給食週間(1月24日〜28日)に合わせ、町内産野菜を使った「いびサトイモコロッケ」、「ブロッコリーとインゲンのいびみそドレッシングあえ」、「カブのかきたま汁」が登場しました。

今回の食材提供者の高橋富美雄さん(脛永)は、野菜作りの工夫や保存方法を、田代すみ子さん(谷汲有鳥)は、大豆からみそができる工程を説明しました。児童らは、「食材を一生懸命作っていただいているので、感謝して食べたい。」と話しました。



▲食材の説明を聞きながら給食を味わいました

ふるさと春フォトコンテスト
入賞者表彰式

1月29日(土)、春日六合の「かすがモリモリ村リフレッシュ館」で、春日地域の自然・歴史・文化などをテーマにした「ふるさと春日フォトコンテスト」の表彰式が行われました。

応募総数78作品のうち14作品が入賞し、表彰式には、最高位の揖斐川町長賞に選ばれた石井真澄さん(垂井町)ら入賞者12人が出席しました。

宗宮町長は、「棚田や祭りなど春日の特徴をとらえた作品を出していただきました。町としても春日の魅力年全国に発信していきたい。」と話しました。

応募作品は、3月15日(火)まで「かすがモリモリ村リフレッシュ館」に順次展示されます。



▲表彰式の様子(かすがモリモリ村リフレッシュ館にて)



▲地域の連携が大きな力を育みます

1月29日(土)、地域における特別支援教育の情報共有と関係機関の連携強化を目指して、揖斐厚生病院で「揖斐川町特別支援教育フォーラム」が行われました。

この日は、医療機関や町内外の支援施設、学校関係者からおおよそ90人が参加し、早期療育と就学前指導の必要性についてなど、それぞれの現場における取組や今後の課題などが発表されました。

揖斐川町特別支援教育フォーラム推進委員会のメンバーで、発起人の揖斐厚生病院の言語聴覚士 立木一美先生は、「病院・就学前の機関・学校・地域が連携を深め、早期からの一貫した支援を継続することが必要です。」と話されました。

揖斐川町特別支援教育フォーラム
 地域の情報共有で連携強化



▲叙勲の伝達が行われました。

平成22年11月27日に亡くなられた古野数利さん(谷汲神原)が旭日単光章を受章され、宗宮町長よりご家族へ伝達が行われました。

古野さんは、平成元年9月から旧谷汲村議会議員として、4期15年5か月にわたり在職されその間、議長、副議長を各1年間歴任し、議会の円滑な運営にご尽力されました。また、地方分権や町村合併の推進など行政の枠組みが大きく変わろうとする中で、谷汲村議会町村合併問題研究会を設立し、町村合併や小学校統合に大きく貢献されました。

これら生前の功績が認められ、今回の叙勲の受章となりました。この多大な功績に対し、敬意を表しますとともに、心からご冥福をお祈りします。

叙勲(旭日単光章)受章



▲仁王門前で行われた豆まきの様子

2月3日(木)、谷汲山華厳寺で、社団法人谷汲観光協会主催の節分厄払い行事が行われました。

この日は、平日にもかかわらずおよそ3500人の観光客が集まりました。

仁王門に設置された高さ3・3メートルの赤鬼をバックに、家内安全、無病息災などを願い福豆がまかれると、福をつかみ取ろうと訪れた参拝客は必死に手を伸ばしていました。

会場内では、甘酒無料サービスも行われ、この温かいおもてなしに、訪れた参拝客の笑顔がこぼれていました。

「福は内!」節分厄払い行事
 谷汲山華厳寺



▲みんなで一緒に大会を成功させよう!

2月7日(月)、揖斐川町役場で、「ぎふ清流国体・ぎふ清流大会開催600日前セレモニー」が行われ、町議会議員、行政推進員代表者、国体専門委員など、約150人が参加しました。

セレモニーは、カウントダウンボードの除幕式が始まり、きたがた幼稚園5歳児15人による「ミナモダンス」や参加者全員による「がんばろーコール」などが行われました。

宗宮町長は、「スポーツを通し、互いに助け合い、協力しながら大会を成功に導きたい。子どもから高齢者までが一緒に取り組むことがまちづくりにつながっていくと思います。」と話しました。

開催まであと600日!
 ぎふ清流国体・ぎふ清流大会